



ミュージアムの入り口で展示している、坪内正史さん作の **天狗** です。

来待石製

像高 73 cm



天狗は山の神、神仙の守護者、魔物、妖怪などであり、その姿は山伏の装束を纏い、赤い顔で鼻は長く、背中に翼があり、羽田扇（または八手の葉）や錫杖（杖）などを持っています。

天狗（天から降る狗）という名称の発祥は中国で、

元々は災いを知らせる流星や彗星のことでしたが、日本では平安時代後期頃に、僧侶姿で鳶の嘴や翼がある魔物（物の怪）などとされるようになり、鎌倉時代末期から室町時代頃には鼻高天狗の姿でも表現されるようになりました。



から室町時代頃には鼻高天狗の姿でも表現されるようになりました。

山伏

験力（神秘的・超越的な能力）を得る修行や祈祷などをする修験道の修験者。

来待石製の天狗像

城山稲荷神社（松江市殿町）の境内には、鳶に乗る天狗の像があります。空山の大山講跡（松江市大庭町）には、牛馬の守護神・大山さんの眷属（守護者・従者）である



城山稲荷神社



大山講跡

金毘羅宮



鳥天狗の像があります。玉造の金毘羅宮（松江市玉湯町）には、金毘羅さんの眷属である天狗の像（像高：約1.7m）があり、台座には幕末頃の松江石工・幸ハの銘が刻まれています。

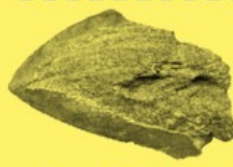
天狗像の参考資料 『おおばの歴史』（1998年、大庭公民館）、『玉湯の江戸時代』（2010年、NPO法人 湯の郷たまゆ）
『島根の石造物データ』（2010年、私家版）、『出雲・石見 狢犬見聞録』（2009年、ワン・ライン）



モニュメント・ミュージアム

来待ストーン

MONUMENT MUSEUM KIMACHI STONE



7.5 cm×10 cm

カルカロドン・メガロドンの歯

（産地：宍道湖南岸、当館蔵）
約2300万年～360万年前に生息していた大型のサメで、江戸時代には歯の化石が「天狗の爪（つめ）」と呼ばれていました。

〒699-0404

島根県松江市宍道町東来待 1574-1

休館日：毎週火曜日（祝日の場合翌平日）

☎ 0852-66-9050